

## 基 本 理 念

未来の夢の実現に向けて、仲間との絆を深め  
失敗を恐れず果敢にチャレンジしよう

## ス ロ ー ガ ン

# 決 断

～情熱を胸に抱き、勇気ある行動へ～

## 基 本 方 針

1. 地域社会に貢献できる会員の拡大
2. 影響力のある魅力溢れるリーダーの意識醸成
3. 次世代を担う国際感溢れる青少年の育成
4. 地域の絆を深める地域コミュニティの共創
5. 郷土の魅力を迫及し、新たなるまちづくりの構築
6. 公益法人格取得を見据えた組織運営

# 所 信

## ■ はじめに

現在、我が国をはじめ多くの国、国際機関で活躍するトップリーダーや、千葉においても政治や経済の場で活躍されている方々の多くは、我々 J A Y C E E の先輩であります。皆、青年時代に「奉仕」を以って「修練」を積み、「友情」を育んでこられた方々です。「恒久的な世界平和」を、そして「明るい豊かな社会」を実現するために、「志を同じうする」青年達が相集い力をあわせ、互いに切磋琢磨することで社会的な能力を身につけ、地域経済や国家・国際社会に貢献しうる人材を常に輩出しつづける組織である J C。今一度、社団法人千葉青年会議所という組織の現状を見つめ直し、以って今後 10 年 20 年と、傑出した人材を地域や国家に輩出し続ける組織として、その輝きを放ち続けてもらいたいと考えます。

戦後の焼け野原からの復興を誓い、立ち上がった青年達の後輩である我々は、先の未曾有の大震災を通して、我が国の未来を担っているのはまさに我々青年世代であるという認識を改めて強く抱くこととなりました。我々青年は再び立ち上がるべき時を迎えたのです。近年、新興国の台頭など我が国を取り巻く経済環境はますます厳しさを増し、外交においても、領土領海問題や近隣諸国の軍備拡張など、不安定要素が増しつつあります。また、国政においては、政策ではなく政争に明け暮れ明確な震災復興対策を打ち出せない状況です。この混沌とした現代社会において、我が国の明るい未来を創出し夢を実現することは容易なことではありません。だからこそ我々 J A Y C E E が先頭に立つべく、その行動力と社会的能力を身につけると共に、一人でも多く同じ志をもつ仲間を集める必要があります。青年会議所運動を通じて、我々 J A Y C E E が成長し、またより多くの仲間を集めることで、社会に対するインパクトを与え続ける組織とならなければなりません。

## ■ 青年会議所の存在意義とは

青年会議所は、次代を担う青年たちが集い、各々の地域社会や企業の良きリーダーとなることを志し、自らの修練と互いの切磋琢磨を積み重ねることで成長を果たす場であります。

ここ数年、入会歴の浅いメンバーが増える中で仲間同志の団結力や友情はより強くなってきていると感じます。しかし、裏を返せば役職による上下関係が希薄になり、自分の責務に対する絶対的な覚悟が弱まっている気がします。役職が人を育てると言いますが、各々の役職に応じた役割を理解し『誰のために、何のために行動をするのか』一人ひとりが今一度整理をし、しっかりとした信念を持って行動を重ね、初めて成果が生まれると考えます。

青年会議所が我々メンバーに与えてくれるものは自分の可能性に挑戦する「機会」であり、人との出会い、繋がりという「絆」であります。1 つの目標に向かって汗を流し、活動の中で共に肩を支え合い、力を尽くしたからこそ知人から友人、そして友人から仲間へと絆が強まり、共に切磋琢磨し合いながら成長していくのです。我々メンバーが成長する学び舎が青年会議所なのです。

## ■ 地域社会に貢献できる会員の拡大

我々が掲げる明るい豊かな社会の実現に向けて大切なことは、「自分たちのまちは自分たちでつくる」「私たちの国は私たちが護る」という本来の地域社会の一員として、自覚と覚悟を持った同志を一人でも多く募り育てることです。まずは、メンバー一人ひとりが自分を信じて行動範囲を広げ、経験値を積み上げ、成長する努力をして「自信」と「ヴィジョン」を持ち、自分に“勢い”を与えることが重要です。その勢いが人を動かす魅力に繋がり運動の資産である人材を惹きつけることと信じています。

また、会員増強と人材育成を成功に導くのは、青年会議所運動を自らが主体的で前向きに取り組むのか、それとも様々な理由をつけて逃避したり後ろ向きに取り組んだりするのかによって大きく左右されます。その為には、我々自身がJCにプライドを持つことであり、本気でJCを語れる人材をどれだけ多く育成できるかにかかっていると考えます。メンバー一人となりまだ見ぬメンバーに青年会議所運動の素晴らしさに触れる機会を作り、自身を成長させる貴重な経験が得られる事をしっかりと伝え、一人でも多くの仲間と青年会議所運動に加わっていただけるよう全力を尽くします。

## ■ 影響力のある魅力溢れるリーダーの意識醸成

青年会議所は単なるボランティア団体ではありません。このまちを継続的に発展させることができる真のリーダーを育成する場であると考えます。今後JC運動を展開していくためには、個々の会員一人ひとりが使命感に溢れ、そして自律心をもったリーダーとならなければなりません。「地域のリーダー」や「青少年の規範」たらんとするのであれば、まずは、自らを厳しく律し、己の資質を高める取り組みが不可欠であると考えます。そして大局的な視野を持った中でまちのため、地域のため、この国のためという気概と使命を持って自分の可能性に挑戦する事が必要なのです。まだ見ぬ壁に突き当たった時でも過去の経験や体験から次を予想し確固たる判断を下す事、「決断」ができる事が次代を牽引できる真のリーダーとしての矜持であると考えます。

また、千葉青年会議所の活動エリアのみならず、千葉ブロック、関東地区、日本青年会議所そして世界へと、自分の知らない自分を発見できる多くの学びの機会をメンバーが待っている事を今一度認識し、勇気を持って一步を踏み出していただきたいと思ひますし、その経験と知識を地域に還元していただきたいと思ひます。今後、多くのメンバーが胸の奥に湧き上がる「使命を果たしたい」という強い衝動（矜持の意識）を高められるような環境を創出し、個人の殻を超えた世界に踏み出す勇気をもってJC運動を展開していきます。

## ■ 次世代を担う国際感溢れる青少年の育成

「教育は国家百年の計」と申しますように教育とはひとつづくりの要であり、付け焼刃でなく将来を見据えた教育が必要です。日本の教育水準低下が叫ばれる中、学校教育や教科書教育などのいわゆる知育教育、頭の教育も必要ですが、同時に道徳やマナー教育など徳育教育、心の教育も重要であると考えます。次

代を担う青少年の健全な育成のためには、好敵手(ライバル)を持ち、共に競い学び合う挑戦する心を育てて目標を達成した喜びや困難を乗り越えた充実感を得る機会を創出し、次なる夢の実現へ挑戦する精神を培っていただきたいと思います。また、我々は小さな島国の一員ではなく、世界の中の日本という国の一員なのであると改めて認識するべきであります。世界を見て・感じて・経験した中から自分たち(=日本人)をもう一度考え直してみた時に、改めて我々の国の歴史や文化、風習などを海外の人達に説明できるように、我々の考えを海外の仲間の考えと対比し話し合い、お互いに自分の意見ではなく国の代表としての意見を交換できるようにならなければなりません。「ナショナルアイデンティティ」という考え方はまずは自分のルーツを知り、地域を知り日本を知り、世界を知った上で自己を確立させていく事と考えます。異世代交流・異文化交流の中での学び・気づきや様々な出会いの中から感動と感謝を体感し、日本人としての矜持を持つことから「おもいやり」溢れる次代を担う青少年の育成が成し得ると確信します。

## ■ 地域の絆を深める地域コミュニティの共創

明るい豊かな社会の実現には、先ずは我々自身が接する環境に対して愛着を持ち、地域愛を持てるかが重要だと考えます。そして愛着を感じるからこそ地域は人に居場所を提供するのだと考えます。「自分たちのまちは自分たちでつくる」地域コミュニティを創造するためには、地域市民みんなが自主的に参加し、その総意と協力により住みよい地域社会の構築を共通の目的として住みよいまちづくりを進めるべきであります。そのためにはJ Cメンバーが人と人の架け橋になり、地域活動を活性化させるしくみや地域市民と共に学ぶ機会を創り実践していくことが必要です。また、地域団体やそこに暮らす人達の声を聞き、地域そのものの魅力を見直す機会を増やす事が重要だと考えます。我々だけでなく、行政や地域諸団体、多くの地域市民と共に愛着を感じる地域コミュニケーションを取っていく事により今後の地域の発展へつながります。

## ■ 郷土の魅力を追及し、新たなるまちづくりの構築

近年の都市化や核家族化の進展などにより地域の連帯感やふれあいが薄れつつある中で、福祉・環境・教育など多くの問題が多様化しています。その上、未曾有の大災害による被害だけでなく政治・経済の混迷や地域財政の疲弊により地域に元気がなくなっている昨今、今こそこのような課題を地域の人たちが自らの問題として捉え、解決に向けて積極的に取り組む“地域みずからのまちづくり”が今こそ必要なのではないのでしょうか。そのためには各地域諸団体が単独で動きそれぞれに事業展開するよりも互いに手と手を取り合い、連携する事による一体感を持ってまちとしての経済波及効果や集客効果を考えていくべきだと考えます。そして、まちとしてのブランドイメージを高める事により、各種イベントや企業が集まり、結果として市民が増加しまちが発展していきます。

また、現在の子供たちを取り巻く環境は、我々の子供時代から見ると大幅に変化しております。当時は「親はなくても子は育つ」と言われておりましたが、それは近隣の住民の方々が社会や学校のルールやマナーを教えてくれたからに違いありません。他人に対する無関心やインターネット・携帯電話の普及による対面的なコミュニケーション不足を補い健全な地域市民を創出するためにも行政・地域諸団体や学生など多様な世

代のコミュニティと手を取り合い、地域ぐるみの安心できる環境を創出し地域発展へ寄与していくべきなのです。

## ■ 公益法人格取得を見据えた組織運営

公益法人制度改革関連3法案の施行から3年の月日が経とうとしています。2012年度はメンバーが一丸となり公益法人格移行に向け本格的に取り組まなくてはならない時であり、多くの課題を解決し年度内には実践できる体制を整えなければなりません。公益法人として千葉のまちに必要とされる団体であり続けるためには、情報開示により開かれた組織運営を実践できるように取り組んでいかなければなりません。また新会計基準に基づいた適切な財務管理運営をする必要があります。そして我々の活動とその成果を客観的に検証すると共に多くの公益団体の事業活動の情報収集も並行し、公益社団法人格取得を実現させると共に今まで以上に地域社会の発展に寄与する団体へと成長しなければなりません。

## ■ 結びに

我々とはとにかく外に出るべきだと思います。家庭や職場からだけでなくLOMや地域から、ひいては日本から海外へも、そして大海を見て、聞いて体感したその経験と自信を地域やLOM、職場や家庭に持ちかえり次のステップへの礎にするべきです。一切の妥協を排し、この世の中の良い所を集め膨らませて活用してこそ青年会議所の醍醐味なのです。一度しかない人生だからこそ、すべき事を行い、伝えるべき事を伝えてメンバーと共に精一杯歩んでいきたいと考えています。

日本人の平均寿命が80年少々とした中で一日一日がパズルのピースと仮定すると、個々のピースは掛けがいのない毎日の中で二度とない色を付けながら組み合わせたり、やがて我々の人生が約30000のピースが作り出す大きな絵画で描かれると私は考えます。

あなたの人生は最終的にどのような絵を描けたでしょうか。

そしてどのような絵を描きたいでしょうか。

人生と言う絵を描いていく中で多くの試練や壁を乗り越えていかなければなりません。その決断を下せるのは自分だけなのです。決断とは将来起こりうる不測の事態に対し、熟慮に熟慮を重ねた末に導き出された答えを決断することです。その決断に後悔はあり得ないと考えます。そして、その決断の回数だけでなく質の高さや重さなど、決断の集大成がその人の人生そのものと言っても過言ではありません。

私だけでなく全てのメンバーが情熱と勇気を持って決断を下しながら、未来の夢の実現に向けて失敗を恐れず果敢にチャレンジしていけるような環境を整備して参ります。決断の集大成こそが我々の輝かしい人生であると信じていますから。